

葉っぱ de アート

子どもにとって、自然はかけがえのない環境です。子どもの視線から見る世界は、野に咲く小さな花、土を這う小さな虫、小枝や葉っぱや木の実など、ワクワクするもので溢れています。自然に触れて、その美しさ、不思議さなどに気付いたり、遊びに取り入れたりする中で、好奇心や探究心、思考力が生まれてきます。遊びに季節感を取り入れて、子ども自身が自分の感覚を用いてかわる機会を提供することは、とても大切なことです。

●葉っぱのランプシェード

落ち葉が変色や乾燥しないうちに押し葉にします。それをトレーシングペーパーの上に並べ、ラミネートフィルムで閉じて、葉っぱのランプシェードにします。

□用意するもの□

- ・押し葉
- ・トレーシングペーパー (B4～A3)
- ・帯状のもの (画用紙や木のシートなど張りのあるもの)
- ・ボンド
- ・ラミネートフィルム (トレーシングペーパーの大きさに合わせます)
- ・ラミネーター

□遊び方□

- ①落ち葉を変色や乾燥しないうちに押し葉にしておきます。
- ②トレーシングペーパーの上部と下部に帯状のシートをボンドで貼ります。
- ③押し葉をトレーシングペーパーの上に自由に配置してボンドで貼っていきます。
- ④③をラミネートフィルムにはさみ、ラミネーターに通します (厚くなってしまうと、故障の原因になります。機械の使用法をよく確認して行ってください)。
- ⑤円柱状にして閉じます (麻ひもで縫うように閉じて、きれいに仕上がります)。
- ⑥ポータブルのLEDの照明の上にかぶせて、楽しめます (照明が高温にならないものが安全です)。

※押し葉に目や鼻や口を画用紙などで付け、ラミネーターを通して、しおりや子どもの名札にしても楽しいです。



【こどもの城】のおやこクラブ (1歳児親子) や保育クラブ (2～5歳児) でも、自然を取り入れた遊びの機会を意識的に設けています。散歩や遠足などの館外活動では、子どもたちがさまざまな物を大切にポケットに入れたり、袋に入れたりして持ち帰ります。持ち帰ったものは、子どもにとって大切な自然とのかわりの証拠です。

子どもにとっては、持ち帰りたかったその時の気持ちに意味があり、その後それらに興味を持たないこともあるでしょう。拾ってきたものを「どうなっているのかな？」と観察をするうちにちぎってみたり、また誰かに「はい、どうぞ」とプレゼントしてみたりするかもしれません。このような子どもの姿に、大人がじっくりつきあうことはとても大切なことで、時には、その素材を生かした造形活動を大人が提案し、子どもたちと楽しんでみるのも、良いかもしれません。

大人と行なった活動が、さらに子どもたちの気付きや興味の広がりにつながることを期待しています。



●葉っぱをプリント

子どもが拾ってきた葉っぱを使って、形や葉脈を版画のように絵の具で写す遊び。子どもの驚きの表情や、大人もつい夢中になる「造形遊び」です。

□用意するもの□

- ・落ち葉 (乾燥していないもの)
- ・絵の具 (原液に近い濃度のもの)
- ・写しとる紙 (画用紙やダンボールなど)
- ・ローラーや筆
- ・新聞紙

□遊び方□

- ①葉の裏 (葉脈のはっきりしている方) にまんべんなく絵の具を塗る (筆かローラーを使って)。
- ②①の絵の具を塗った面を写しとる紙に当てて置く。
- ③②の上に汚れても良い紙 (新聞紙など) を敷き、手や乾いたローラーで圧を加えながら、葉っぱがずれないように紙に写す。
- ④そっと、葉っぱを剥がす (何回か同じ葉っぱを使うことができます)。

※葉っぱに塗る絵の具の濃度は、原液に近い程度の方が、きれいに写し取ることができます。また、ダメにならないように塗れるように、使う道具は年齢によって工夫すると良いでしょう。写し取った時の葉脈の美しさに驚いたり、写し取った葉っぱのプリントを乾かして、さまざまな作品にすることができます。

<例>

- ・葉の形に切り取って使う。
あらかじめ絵の具で色を付けて紙の上に、白などの絵の具で葉脈をプリントしてもきれいに出来ます。季節を感じる作品にしたい場合、ダンボールなどの厚い素材にドングリなどの木の実をボンドで付けて飾っても良いかもしれません。